

異常型プリオンタンパク試験管内増幅法 (RT-QUIC法) とバイオマーカーを用いたヒトプリオン病の髄液診断法の確立

研究分担者: 長崎大学大学院医歯薬学研究科 西田教行

＜目的＞ ヒトプリオン病患者髄液中の14-3-3蛋白およびタウ蛋白とRT-QUICの検出感度を、遺伝性を含む様々な病型ごと、採取時期による比較検討を行い、発症早期確定診断法としての有用性を明らかにする

＜髄液検査のまとめ＞

sCJD	本邦 (H23)	ドイツ	豪州	韓国
検査検体数	225	40	31	114
累積確定例	22	40	17	4

- ・ 遺伝性プリオン病はV108I型 60例、P102L型 7例、M232R型 14例、E200K型 13例
- ・ 今回初めてRT-QUIC陽性を示した非プリオン病2例(国内1例、韓国1例)を経験した

＜発症から4週以内に採取の髄液＞

Age	sex	14-3-3 γ	tau	RT-QUIC	DWI-abnormal findings
73	m	3,850	2,068	-	positive
67	m	10,814	9,055	positive	positive
76	m	6,772	4,645	positive	positive
80	f	9,850	8,766	positive	positive
63	f	2,987	1,814	-	positive
67	m	3,553	3,055	positive	positive
70	f	3,729	2,841	-	positive
63	m	6,133	3,125	positive	positive
63	m	8,297	3,530	positive	positive

解 説

1. 本年度4月～9月末までの集計では、国内からの髄液検査依頼総数は225件、ドイツ40症例、オーストラリア31例、韓国114例であった。確定例は新規症例を加え延べ国内22症例、ドイツ40症例、オーストラリア17症例、韓国4症例
2. 発症より4週以内に採取された髄液はCJD(確定例)で9検体あり、うち6例では14-3-3, RT-QUICともに陽性であったが、3例ではRT-QUIC陰性であった。髄液検査におけるバイオマーカーは早期確定診断においても有用であることが示唆される。